

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 2年 3月19日

事業所名 こども支援センターえがお

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	5		・運動するのにも う少し広い部屋が あったら良かった	状況に合わせた部屋の使い方の工夫や、園庭、地域の公共の施設の利用を考えていきます。
	2	職員の配置数は適切である	14	2			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	15	1			
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10	5		・十分とは言えないが、振り返りの時間等で情報共有を行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	6	2		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	5	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	7	2		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	3	1		
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	14	2		・自分の担当だけでなく、利用児一人ひとりのアセスメントを職員で話し合った	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	2	3		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	3	1	・活動予定などは決めているが、プログラムの立案はしていない ・主活動は週ごとに係りを決めている	活動のプログラムの立案は行っていますが、今後職員間での情報の共有に努めながら状況に合わせ随時見直しをしていきます。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	4	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形ではあるが・作業工程は似ているものが多い ・活動の係りの時は、係りで話し合い前の週と被らない活動を考えている 	・同じ活動でもお子さんや曜日によってねらいや視点が違うため、話し合いを行いながら活動等が固定化しないように努めています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	6	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかまではできていない ・長期休暇は活動を2つ入れている 	利用時間や利用人数、メンバーを加味して目的をもって計画を立て支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	14	2			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	4	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇等、朝から来園時はできていない 	長期休暇については、全員での打ち合わせが難しいので、その日の活動内容、準備物、ねらい、環境設定、流れ等を書面にて共有できるようにしていますが、不十分な点もありますので、今後検討していきます。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・翌日の午前中おこなっている ・支援終了後、記録を書いて振り返りは翌日なので、新鮮な意見を言えない時がある 	毎日の振り返りは翌日に行っています。(必要な場合はその場で行っている) 今後も状況に合わせた振り返りを行っていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	5			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	15	1		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの様子を必ず全員に報告している 	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの総則の基本活動の内容をきちんと把握していなかった 	ガイドラインの総則の周知と支援に反映することに努めています。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	4	1			

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	11	3	1		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	5	2		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	6	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	4	2		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	3	5	・子ども小児療育センター（県）の研修に参加や、他事業所より講師を招いて研修を実施。また、助言等も受けている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	10		・地域の公園で一緒に遊ぶ機会があった	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	5	7		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	4			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	2	7	・ペアレントトレーニングという言葉があまり知らなかった	ペアレント・トレーニングは未だ出来ていませんが、保護者の相談等は随時行っています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	3			

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	7	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	6	2	・今年度は一度、親子交流会を開催し、そこで保護者同士話している場面がみられた	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11	4	1		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16				
	35	個人情報に十分注意している	15	1			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15	1			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	3	6		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	7	4	・保護者には周知できていない	・様々な場面を想定をした訓練（防犯、水害等）と保護者向けの訓練を実施していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	5	2	・全員対象で行えていない ・定期的には行えなかった	・こども支援センターとして定期的な訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	5			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	4			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	5	2		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	2	2	・ヒヤリハットがあった際は、会議を開き対策を立てている	